科目名	救急撮影技術学特論	分野・必選別・単位数	専門科目	選択	2単位

担当教員	◎教授　岡本孝英　　教授　古井　滋　　准教授　菱木　清 教授　坂本哲也(医・救急)　教授　横山正巳(医療・スポ)　講師(非)　南　敏広					授業方法	講義
課程	博士前期	配当年次	2年	配当学期	前期	配当コース	診療放射線コース

授業の概要	高齢化、多様化する現代の救急診療において、安定して最適な画像情報を提供し、かつ安全性を担保する知識・技術を修得する。 近年の救急医療は急速に進歩を遂げている。その診療における画像診断の重要性はますます増加する傾向にある。救急診療の現場で、昼夜を分かたず画像情報を提供する診療放射線技師には、疾患や損傷に関する知識はもちろん、迅速で安全な検査の実施や診断のための質の高い画像情報を速やかに提供することが求められる。本論では、救急医療の知識に加え、救急撮影と救急画像診断、救急診療における安全管理など、救急撮影の分野に特化した撮影技術学を学び、安定して最適な画像情報を提供し、かつ安全性を担保する知識・技術を修得する。
授業の到達目標	救急医療の知識に加え、救急撮影と救急画像診断、救急診療における安全管理など、救急撮影の分野に特化した撮影技術学に関して説明できる。

授業計画

回数	担当者		行動目標
1	岡本　孝英	教　授	救急医学概論について説明できる。
2	坂本　哲也	教　授	内因性疾患患者の診療指針(脳卒中・急性期疾患・中毒患者・感染症患者の治療の基礎と診療指針と求める画像情報)について説明できる。
3	坂本　哲也	教　授	外傷患者診療指針(JATEC)とトリアージの概念(外傷患者に対する画像診断の適応と画像所見および 治療方針とその判断基準)について説明できる。
4	古井　　滋	教　授	救急画像診断概論(急性期疾患画像診断の注意点、特徴的な画像所見と注意点、内因性疾患の画像診断におけるポイント、外傷患者の画像診断におけるポイント)について説明できる。
5	岡本　孝英	教　授	内因性疾患の診療における撮影の実際(脳卒中，脳脊髄疾患撮影・呼吸器系疾患撮影・ 心・循環器系疾患撮影・ 腹部救急疾患撮影、中毒患者・感染症患者・小児の撮影の基本、注意点)について説明できる。
6	南　　敏広	講師(非)	外傷診療における撮影の実際(外傷患者撮影の基礎、初期診療と画像診断の関係、Primary survey、Secondary surveyにおける撮影の特徴と注意点、外傷患者撮影の基本と注意点)について説明できる。
7	菱木　　清	准教授	救急患者対応の基礎(初期診療の手順，受傷機転の判断，重症度評価，救急医療で扱う各種データ)に関する知識を有している。
8	岡本　孝英	教　授	代表的な内因性疾患の画像認識(代表的な疾患についてその画像の特徴と画像認識のポイント)について説明できる。
9	岡本　孝英	教　授	演習①:内因性疾患の画像を認識できる。
10	南　　敏広	講師(非)	代表的な外傷性疾患の画像認識(代表的な疾患についてその画像の特徴と画像認識のポイント)について説明できる。
11	南　　敏広	講師(非)	演習②:外傷性疾患の画像を認識できる。
12	横山　正巳	教　授	救急患者の取り扱い(救急患者の安全な取り扱い、患者取り扱いの基本、バックボード上での撮影、二次損傷の原因とその症状、および発生の防止、患者急変時対応の基礎)について説明できる。
13	横山　正巳	教　授	演習③:救急患者取り扱いができる。
14	坂本　哲也	教　授	演習④:患者急変時の対応ができる。
15	岡本　孝英	教　授	まとめ:救急撮影技術に関してゼミ方式で議論し、レポートを作成する。

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間		
	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。 次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。
	【必要時間】	該当期間に30時間以上の予復習が必要。

教科書	「救急撮影ガイドライン」、へるす出版
参考書	
評価方法	レポート80%、授業内課題20%
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中で解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。